

写真：安田小学校で行われたICT授業の様子。
(やすぎどじょっこテレビの番組収録時)



子どもたちの 教育環境を考える

～安来市小中学校適正規模・適正配置
の検討スタート～

現在、学校が抱える課題は複雑化・多様化しています。学校だけでなく社会全体で子どもたちの育ちを支えることが求められています。

また、学校教育では、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」という「令和の日本型学校教育の構築」を進めなければなりません。

そして、急激に変化する時代の中で、子どもたちに育むべき資質や求められる能力は、常に変化しています。

このような中、未来を担う子どもたちにとって、望ましい教育環境の方向性等を打ち出していく必要があります。その方針を検討していくために、市教育委員会では「安来市教育政策推進会議」を立ち上げ、協議をスタートしました。ここでは、市の学校規模の現状やその課題、今後のスケジュールなどをお知らせします。

問い合わせ

教育委員会教育総務課

☎ 23・3234

安来市の 学校規模の現状

市内の学校には、小学校17校、中学校5校の計22校があります。児童生徒数は、平成15年度は3,846人だったものが、令和3年度は2,766人となりました。市町村合併前の平成15年度と比べると、1,080人減となっています。また、学級数でも児童・生徒数の減少により、学校規模に差が出ています。

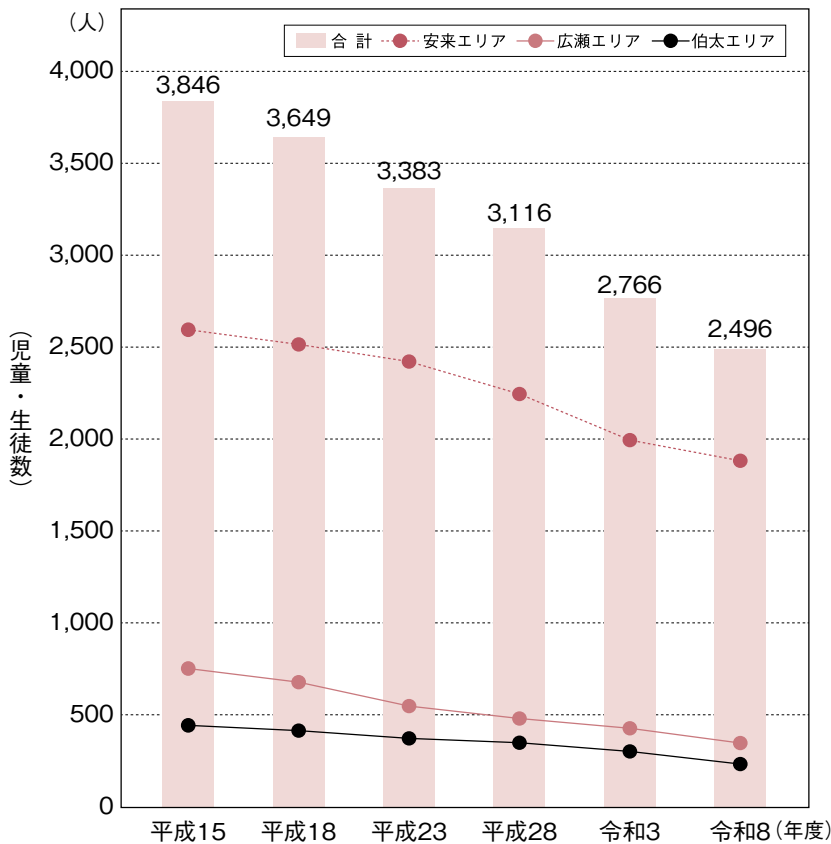
学校名	校区内の小学校
第一中学校	島田小、社日小、十神小、赤江小（※）
第二中学校	宇賀荘小、能義小、南小
第三中学校	赤江小（※）、荒島小、飯梨小
広瀬中学校	比田小、広瀬小、布部小、山佐小
伯太中学校	赤屋小、井尻小、母里小、安田小

※赤江小は、第一・第三中学校校区に分かれる。

一定の集団規模の確保が課題

学校教育の根幹には「児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていく」という特質があります。そのため、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられています。

この点で、現在の児童・生徒



の減少は、教育環境に大きな影響を与えています。

教育政策推進会議で議論

安来市教育政策推進会議では、PTAの代表や学校関係者、社会教育関係者、学識経験者等が委員となり、6月から協議を進めています。

会議では、それぞれの立場から、教育に対する考えや思い、市の教育に対する現状や課題

についてさまざまな意見を交わしています。

教育内容や活動は、安来の教育の特色や、ふるさと教育の推進、保幼小中一貫教育等、これから学校の適正規模・適正配置を検討していく上で、考慮・検討すべき事項が出ています。

また、学校と地域は密接に関係しています。今後の学校教育活動や地域活動で、学校と地域の連携・協働は欠かせない視点となっているため、地域づくりの方向性も今後検討が必要との

基本方針提言骨子（案）

1. 基本方針策定の趣旨
2. 安来市の小中学校の現状
3. 安来市が目指す学校教育と望ましい学習環境
4. 適正配置を検討するにあたっての考慮すべき事項
5. 適正配置に向けた基本的な考え方
6. 適正配置の進め方

意見もあります。

基本方針の策定に向けて

今後、安来市教育政策推進会議では議論をまとめ、市教育委員会へ提言することとなります。

市教育委員会では、この提言をもとに、総合教育会議で議論を深め、令和3年度中に「安来市小中学校適正配置の基本方針」を決定していきます。

令和4年度、5年度には、基本方針をふまえた基本計画を策定し、令和6年度以降には、具体的な実施計画を策定していく予定です。

基本計画や実施計画の策定にあたっては、市民の皆さんに広く意見をいただけるよう、機会を設け情報提供していきます。



▲環境学習の一環で、学校周辺に流れる吉田川の水質検査をする南小児童。

